

▶ 災害救援ストレス対策研修を実施して ◀

一般財団法人 福岡県消防協会

1. 福岡県消防協会の事業取組について

福岡県は、福岡、北九州、筑後、筑豊のそれぞれ特色の違う4つの地域が所在し、73消防団、25,112人の消防団員を擁し、郷土愛護の精神の下、一致団結して地域の安全・安心に努めています。

県内の消防団員数については、10年前に比べ720名(2.9%)減少していますが、県南に位置する消防団では、26年度に機能別消防団の活用により団員数を大幅に確保したところもあります。当協会では、平成22年度から消防団加入促進事業により、ブロック協議会が市町村や各地域の消防団と連携し、消防団員の加入促進を図ることに取り組んでおり、平成26年度からは加入促進に尽力した消防団を団長総会の場で表彰する取組も行っているところです。こうした取組に併せ、県内で実績のある機能別消防団の活用や女性団員の加入促進にも力を入れているところです。

女性消防団員に関する取組としては、平成22年度から「福岡県女性消防団員研修会」を開催しており、平成25年度から「福岡県女性消防操法大会」を隔年で開催しています。この取組は、女性消防団員の情報交換の場を設ける意味でも意義あるものと位置付けています。

2. 福岡県女性消防団員研修について

福岡県内の女性消防団員は、882名で年々増加しており、当協会では各地域で取り組んでおられる様々な活動内容について、広く情報交換することで団員相互の活性化につながるという目的のもとに福岡県女性消防団員研修会を開催しています。

この研修では、行政、専門家等による講演をお願いした後、女性団員による活動事例報告や

火災予防啓発劇などを披露してもらい団員相互の意識啓発に役立ててもらっています。



3. 災害救援ストレス対策研修開催の経緯

これまで当該研修会の講演では、大規模災害を経験した団員による体験談や危機管理への対応等の演題で実施しており、災害時の後方支援や平時における防火指導等を行う女性消防団員についても、消防活動において発生する惨事ストレスやPTSDの問題を学んでもらおうと災害救援ストレス対策研修を開催することになりました。



4. 災害救援ストレス対策研修を実施して

平成29年2月2日に福岡市民会館での28年度研修会に別府大学文学部人間関係学科教授 矢島潤平氏をお迎えし、「救援のストレスを考える～PTSDと惨事ストレス～」の演題で出席者230名に対し、ご講義をいただきました。

まず講演の冒頭、いわゆるゲシュタルト(だまし絵)をいくつか紹介され、目の錯覚により生じる絵柄の不思議さと驚きで研修生の気持ちを和ませられ、その後の本題講義へ女性消防団員を引き込んでいかれました。

講義では、「PTSDの診断基準」や「その関連症状と知っておいてほしいこと」、「PTSDを引き起こすイベント」、「惨事ストレスとは」、についてわかりやすい説明があり、惨事ストレスの対象となる人たちとして、災害救援者、ボランティアが2次被害者となることを教えていただきました。



5. 受講者の感想

受講者からは、次のような感想が寄せられました。



「災害ストレスだけでなく、仕事上のストレスでいろいろな対策や生活に役に立つ話をたくさん聞くことができた。」

「突然起こる災害に対応できるように準備や訓練を行いたいと思う。被災者、支援者のストレスには気を配りたい。」

「女性は現場に出ることは少ないが、今後、災害が多くなってくると女性も活動が増えてくるかと思う。日頃から団員全体のコミュニケーションや体調など気を配り、お互いが対応を知っておかなければならないと思う。」

6. 今後の取組について

研修に参加した女性団員からは、研修に出席できなかった団員にも内容を伝えたいという声をいただきました。今回の講演を通じて、女性消防団員が惨事ストレス、PTSDの問題が消防団活動だけでなく、広く生活全般の中で役に立つ知識ということで非常に興味を持たれていることがわかりました。今後も当協会として、消防団活動の一助になるような研修会の実施を企画していきたいと考えています。